



幼稚園だより

令和5年度
1月号

令和6年1月9日
文京区立湯島幼稚園
園長 前田 宏子

ウェルビーイングを考えよう

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

今年の年明けは様々なことがありました。まずは令和6年能登半島地震で被災、被害を受けた方に心よりお見舞い申し上げます。

災害は時と場を選んできてくれません。そんな当たり前のことを今年の元旦に感じました。そのためにも幼稚園では毎月の避難訓練を様々な想定で行っています。地震も火事もいつ出会うか分からないものです。日頃の訓練は必ず、命を守る行動につながると信じています。今回の航空機の事故も旅客機の乗員乗客全員が避難することができ、海外のメディアから「驚くべき避難」「奇跡的だ」と言われているといます。乗員の方の日頃の訓練があったからだと思えます。亡くなった方に対してご冥福をお祈りいたしますとともに、今一度、身の回りの生活を見直し、自分の命は自分で守れるようにしていきたいと思えます。

避難訓練で「自分の命は自分で守ることが大切」と子どもたちに伝えていきます。災害においてはもちろん、これはすべての生活につながっていると考えます。自分の命を守る＝自分のことを大事にする＝自分のことを自分で幸せにすることだと思えます。

昨年の6月に教育振興基本計画が出され、その中で「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられました。幼児教育においてもウェルビーイングの考え方は重要です。慶応義塾大学大学院教授 前野 隆司先生は幸せに影響する心的因子を4つ挙げています。○自由に伸び伸び創造性を発揮する（やってみよう因子）○多様な人と多様なつながりをもつ（ありがとう因子）○ポジティブに物事を捉える力をもつ（なんとかなる因子）○自分軸をもって自分らしく生きる（ありのまま因子）です。これらの因子は大人に対する分析ですが、幼児にも当てはまるところがあります。

世の中は激変しています。その中をたくましく対応して生きていく子どもたちです。「なんとかなる」と思い、自分らしく「ありのままに」捉えて、「やってみよう」と自分を信じてチャレンジする。そして周りの多様な人たちに「ありがとう」の気持ちをもって関わることができるようになってもらいたいと思えます。

3学期が始まります。短い学期ですが、1年間のまとめの時期になります。毎日を大切に過ごしていきたいと思えます。

今年も本園の教育にご理解、ご協力をお願いいたします。